大阪
OSAKA
大阪府寝屋川市

絆が紡ぎだす つながる保育で 目指す皆の幸せ

子育ての楽しさを伝えるエンターテイナーになろう――
今回、大阪で出会ったのは、このビジョンを掲げ、寝屋川市内で認定こども園2園、企業主導型保育園1園を運営する社会福祉法人大阪誠昭会。
乳児教育から人と人とのきずなを育むコミュニティ「きずなコミュ」
子育ての楽しさや感動を園内だけに留まらず、各家庭、地域、そしてもっと広く世の中まで発信する先生達は笑顔に溢れていた。

つながる保育が紡ぎだす かけがえのないストーリー

「おはようございます!」仕事の手を止め、来園者にハツラツとした笑顔で挨拶をする先生たち。手作りのウェルカムボード。保育室から聞こえてくる笑い声。ねやがわ寝屋の森こども園は、人の温もり溢れる園だ。そんな同園を運営する社会福祉法人大阪誠昭会は『子育ての基本は家庭であるが、保育園・認定こども園も共に育てる存在となり、地域、さらに広い世の中…子どもを取り巻く全てが子どもを育んでいる』と考え、子ども、先生、保護者、地域…大阪誠昭会を起点に広がる人と人との絆を大切にしている。それが「きずなコミュ―7つのきずな―」である。園内外のたくさんの人が協力し合うことで実現しているのが、同法人の〝つながりのある教育・保育〟だ。

その代表的な1つに食育がある。子どもたちは園の農園での栽培活動だけでなく連携している近隣農家の田んぼで田植えも行う。園内の自然農園では子どもたち自身が水をやり収穫した作物は、給食やクッキングの食材になる。更に、子どもたちが育てた米や野菜は販売をすることで、家庭の食卓にも並ぶ。「この野菜、僕が育てたんだよ!おいしい!」そんな声は、同法人が教育プログラムで大切にしている直接体験を通して喜びの心を育んでいる証といえる。子ども1人ひとりが小さな体験を積み重ね、その子ならではの楽しく温かいストーリーを紡ぐ。そんな保育を実践する先生たちに、今回はお話を伺った。

種まき、観察、水やり、収穫…1年かけて見守るからこそ伝わる食育を実践。

近隣の提携農家の田んぼで、田植え体験!地域とのつながりで生まれる保育。

育てた野菜やお米は、園内や家庭で、子どもたち自身がおいしく食べている。

ワクワクのきっかけは 食育と保育へのこだわり

学生の頃から食育に興味があった綺乃先生。「食育が盛んな園を探していたときに出会ったのが、大阪誠昭会でした。興味を持って調べているうちに大阪誠昭会の〝7つのきずな〟を知ったんです」親子、子どもと子ども、保護者と保護者、園と子ども、園と保護者、園と地域、園と職員。それぞれの絆を大切にする同法人の姿勢に共感したという。「園を出たら子どもは各家庭へ帰っていく。それなら、園内と園外での子どもたちの生活を切り離さずに考えることが大切、だからこそ絆を育む必要がある。地域からも信頼される施設を目指すこの園で働きたいと思い、実際の保育を見てみたくなったんです」園見学では、驚きの連続だったという。「先生同士が活き活きと仕事をされていて、先生一人ひとりのアイデア

が教育・保育、そして食育にも活かされている様子を直接感じることができました。見学を進めるほどにワクワクする心が膨らみ、就職を決めました」

体験から学ぶ成長に感動! 仲間と築く充実ライフ

ここしかない!そう確信して就職した綺乃先生は、今年で3年目。「食育、音楽、造形など直接体験から学び、成長する子どもの姿に感動ばかりの日々です。先日、ある野菜嫌いの子が、自分で栽培・収穫した野菜を給食の中に見つけ『このトマト、ぼくが採ったんやで!』と見せてくれました。『すごい!おいしそうだね!』と話していたら…『ぼく、今日トマト食べるねん』とおいしそうに食べはじめたんです!毎日の栽培体験が〝食べたい〟という意欲につながった瞬間でした。すごく嬉しかったです!」共感できる保育に加え、保育以外の経験を積める点も仕事を楽しめている秘訣だという。「最近だと、食育を家庭に浸透させることを目指し、大学の先生、法人内のプロジェクトメンバーと協力して食育ボードを作りました!いつもと違う刺激や発見があって楽しかったです。働いていると色々なことがありますが、先生同士の絆が強く、フォローし合える環境なので仲間のおかげで前向きに仕事と向き合えています。だからなのか、働きはじめてからの自分の方が好きなんです!」そう話す綺乃先生は明るい笑顔。今後の目標を伺うと「普段から『こうしたらもっと子どものためになるんじゃない?』とアイデアを出す先輩たちを見て『私ももっと子どものことを考えていこう!』と思っています。そして、今度はわたしが、後輩にそう思われる先輩になりたいです」と教えてくれた。

子どもも大人も、みんなで成長と充実を得られる秘密

「大阪誠昭会には食育だけでなく、めざまし教育(※)など様々なプログラムがありますが、それらのプログラムを単発で終わらせるのではなく、1年間を通して学び、日々の直接体験に繋げていきます。子ども達の〝今〟の興味を見つめ、成長を促すために次はどうしていくか。仲間とアイデアを交わしながら保育を作り上げていくのが楽しいんです」そう話すのは、6年目の富貴先生。日々の体験が成長につながっていく。富貴先生自身も同法人でそんな経験をしたそう。「2年目に、同期の菜美先生と一緒にクラスを担当したときのこと。先輩から学んだことを2人で持ちより、試行錯誤しながらやりきった。『やりたい保育、目指す保育に近付けた』という実感を得た1年でした。その経験が自信につながり、3年目以降はますます保育が楽しくなっていったんです。そんな2年目を過ごせたのは、丁寧なマニュアルや先輩のフォローに助けられた1年目があったから。楽しい遊び、直接体験を積み重ねるうちに子どもが成長していくのも同じことで、過程があるから成長や充実があるんですよね。その過程を大切にしているのが、大阪誠昭会の保育の魅力かなと思っています」そう話す富貴先生は、今春、出産を控えている。産休・育休後は仕事復帰をする。

誰もが自分らしく輝ける職場で目指す未来とは

「園では『先生』と呼ばれる仲間たちも、プライベートではお母さんだったり、娘だったり、主婦だったり…ここには、園外でいろんな顔を持つ先生がいます。そんなプライベートも大切にしてくれるのが大阪誠昭会。わたしが妊娠したことを伝えたときも、どうしたら無理なく働き続けられるかを一緒に考えてくれました。同僚の先生たち、保護者の方々に報告したときも、みんな自分のことのように喜んでくれて感激の一言。改めて大阪誠昭会の絆の温かさに感謝しました」ワークライフバランスを考え、職員それぞれが自身に合った働き方を選べる同法人。また、職員の不安解消・成長を支える多様な研修、頑張りが還元される人材育成プログラムなど、やりがいを持って長く続けられる環境が整えられているという。「そんな環境なので結婚したときも妊娠したときも辞めようかなという考えは起きませんでした。育休復帰後は、母親という立場から、保育教諭として、また、1人の女性としても成長していきたいです!」

人の絆、体験のつながり、そこで生まれる過程を大切にしながら、子どもも大人も笑顔で成長できる場所。大阪で出会ったのは、そんな他にはないコミュニティを生み出している法人だった。

大阪総合保育大学 卒業
2014年4月 入職

小松 富貴
Fuki Komatsu

自然豊かな環境、笑顔で保育する先生たちの姿に惹かれ入職。今年春に産休・育休予定。「1年目に0.1歳児クラスで担任をした子どもたちが5歳児になり、乳児のときに土台づくりとして行っていた体験を糧に成長している姿を見せてくれたことが本当に嬉しかったですね!」とのこと。

共に、制作に携わった大阪誠昭会著作の食育レシピ本「保育園産の米」(2017 出版社:パレード)を持って、同期の菜美先生と。園内だけに留まらず、地域、もっと広い世の中と連携した活動で、子育ての楽しさを伝えています!

どうしたら無理なく食育が家庭に浸透するかを考え、武庫川女子大学・国際健康開発研究所の監修のもと同僚たちと協力して作り上げた食育ツール。毎日の給食の食材について学ぶために園児が分類し、食育に活用しています。

京都文教短期大学 卒業
2017年4月 入職

田島 綺乃
Ayano Tajima

食べることが好きだという綺乃先生。食に対する好き嫌いの理由が幼少期に多い事を知り、食育に興味を持ったそう。食事の楽しさを伝えられる時間は大きなやりがいの1つだという。職員関係について聞くと「仲間想いです!クラス・役職関係なくフォローし合うチームワークは、大阪誠昭会の自慢です」とのこと。

社会福祉法人大阪誠昭会
(取材園:ねやがわ寝屋の森こども園)

法人情報
大阪府寝屋川市
寝屋1丁目19-10
(採用受付:ねやがわ寝屋の森こども園)
☎072-822-0045
設立:1982年3月

求人情報はこちら

『子育ては家庭内だけでなく、保育園・認定こども園も含む子どもを取り巻く環境全てが子どもを育んでいる』その想いから「きずなコミュ」という新しい教育・福祉活動を展開。大学と連携した保育の質の向上の取り組み、家庭や地域とつながる保育づくり、地元農家と連携した食育の実践、食育を広める法人著作本の出版など、園外まで広がる活動を行っている。

※めざまし教育…子ども自身の驚きや興味から出発し、楽しい遊びを通して身近な環境への関わりや自分自身の能力にめざめていくフランス発祥の教育方法